



2016年(5月~11月)

# 出羽の古道 六十里越街道 トレッキングスケジュール



# 9月

17日(土)  
19日(祝)

## 六十里越街道フルトレッキング ～江戸時代へタイムスリップ～(2泊3日の旅)

### 菅笠と白装束と金剛杖で『ゆどの詣で』

特別祈禱 宿泊先斡旋 ※1日だけの参加もOK

- コース
- ①1日目: 松根～注連寺・大日坊～皇壇ノ杉～塞ノ神峠～田麦俣
  - ②2日目: 田麦俣～蟻腰坂～湯殿山奥の院特別祈禱
  - ③3日目: 湯殿山～雨池～大峠峠～焼山尾根～志津(温泉付)

特徴

- 白装束に身を包み、松根～志津までの全行程を2泊3日で歩く。(1日だけの参加も可)3日間歩いた後の達成感は格別!江戸時代の道者のように、『ゆどの詣で』を体感し、湯殿山神社本宮へ参拝。

- 参加費
- ①1日目: 約11km: 上りコース標高400m
  - ②2日目: 約9km: 上りコース標高差660m
  - ③3日目: 約9km: 下りコース標高差430m

- ①3,000円 拝観料(2寺)
- ②3,800円 湯殿山奥の院特別祈禱料・シャトルバス代
- ③2,700円 入湯料とお茶

①～③共通 おいずり代・ガイド料・他

主催 ●あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411

## ブナの森に佇む千二百年の歴史街道を歩いてみませんか!

庄内地方と内陸を結ぶ「六十里越街道」は、1200年前の昔から開かれたと伝えられています。歴史の道である六十里越街道の『ゆどのみち伝説』を山船頭人(案内人)から聞きながら、古の人々の想いを感じてみませんか。

NEW

### スタンプラリーをしながら 古道歩きを楽しみませんか?

本明寺～湯殿山神社本宮までの間に11ヶ所のスタンプ場があります。全部のスタンプを集めた方には完歩賞を進呈!

■販売所: 仙人沢売店・湯殿山直売所・田麦荘・かやぶき屋・米の粉の滝ドライブイン・月山あさひ博物館物産館・あさひむら観光協会



ゆどのみち押印帖 ¥500

〈押印風景〉

### 平成28年4月 リニューアルオープン!

六十里越街道を知るならココ!

## ゆどのみち「六十里越番所」

資料展示 案内所 お休み処 あさひむら観光協会事務局

(道の駅「月山」・月山あさひ博物館 文化創造館) ☎0235-53-3411



他のルートはここでチェックしてね!

### 六十里越街道ウェブサイト公開中!!

<http://www.asahi-kankou.jp>

お問い合わせ・お申し込み

## あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411

—— ゆどのみち「六十里越番所」(道の駅「月山」・月山あさひ博物館 文化創造館内) ——

※距離と標高差はおおよその数字です。

※あさひむら観光協会主催について最小催行人数は10人です。

※都合により、日程が変更される場合がありますので、お問い合わせの際にご確認ください。

※当日の天候やその他の状況によりコースが変更される場合がございます。予めご了承ください。

# 5月

## 8日

### 出羽の古道 六十里越街道足ならしトレッキング ～田ノ頭林道☆十王峠展望台周遊コース&プラス～



コース ●〈プラスコース〉本明寺(拝観)～七曲り坂～追分石(周遊コース)田ノ頭林道橋～下道～十王峠展望台～上道～田ノ頭林道

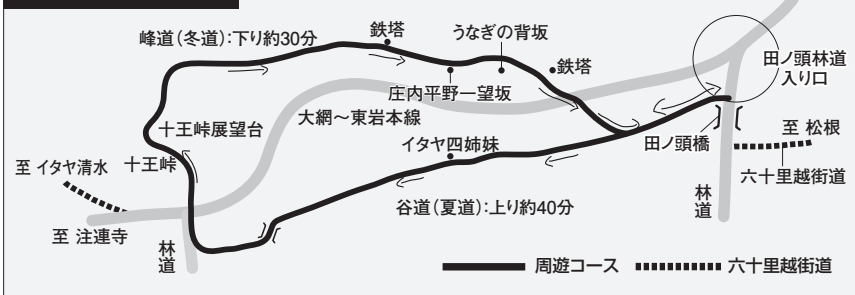
特徴 ●仙台高速バスご利用の方にもご参加いただけます。  
仙台駅前(広瀬通り)発 7:05 庄内あさひBS発 14:40

- プラスコースを歩いて十王峠展望台へ!  
※残雪量により、コースを変更する場合がございます。
- 十王峠からの「月山」の眺めと、庄内平野一望が楽しめます。解放後かたくり温泉で温まってください。
- 約3.6km: 上りコース標高差300m

参加費 ●3,000円 森のカツサンド(昼食)・コーヒーまたは紅茶つき  
拝観料・ガイド料・かたくり温泉券・他

主催 ●あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411

### 〈周遊コース〉



# 5月

## 21日

### 第9回六十里越街道安全祈願祭と 雪ツバキ回廊ミニトレッキング

国道112号横断  
通路を渡ります。

コース ●多層民家～弘法茶屋跡～花ノ木坂～千手ぶな～復路～多層民家  
安全祈願祭8時30分～9時 トレッキング9時15分～12時30分

特徴 ●安全を祈願した後、早春の六十里越街道を歩く。昼食には「田麦俣手打ちそば」を楽しむ。笹巻のお土産もあります!

参加費 ●約6.0km(往復コース): 標高差370m  
●2,600円 手打ちそば代・お土産代・ガイド料・他

主催 ●あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411

# 6月

## 8日

### 固雪の六十里越街道と 旬の山菜料理を楽しむ会



コース ●田麦俣～弘法茶屋跡～馬立～細越峠～笹小屋跡～湯殿山参籠所

特徴 ●大自然の春の息吹を感じながら歩く。  
●歩いた後は山のめぐみが堪能できる旬の山菜を楽しむ。

参加費 ●約8km: 上りコース標高差660m  
●4,500円 六十里越街道弁当(昼食)・旬の山菜料理 ガイド料・他

主催 ●米の粉の滝ドライブイン ☎0235-54-6311

# 7月

## 2日

### 還暦世代を対象にした巡礼の旅 今年、静かに復活! 「六十の詣で」



コース ●七ツ滝◎～独鈷茶屋跡～大掘抜～細越峠～湯殿山神社本宮

特徴 ●街道ゴールの湯殿山神社本宮にて特別参拝・祈禱あり。

参加費 ●約9km: 上りコース標高差660m  
●3,500円 六十里越街道弁当(昼食)・特製山菜汁  
ガイド料・祈禱料・おいずり(白装束)・金剛杖レンタル代他

主催 ●アルゴディア研究会・あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411

# 10月

## 23日

### 新そばと紅葉トレッキング 「新そば食べ放題!」

コース ●田麦俣～弘法茶屋跡～馬立～細越峠～笹小屋跡～湯殿山参籠所

特徴 ●ブナ林の紅葉を楽しむ「そば処大梵字の新そば」を楽しむ。(食べ放題)

参加費 ●約9km: 上りコース標高差660m  
●3,500円 新そば食べ放題・ガイド料・他

主催 ●道の駅「月山」・月山あさひ博物館 ☎0235-53-3411

## 26日

### 紅葉の六十里越街道と 旬の木の子料理を楽しむ会



～庄内と西川町の紅葉を楽しむ～

コース ●集合～バス移動(西川町へ)地蔵沼(周辺散策)～湯殿山料金所前～笹小屋跡～花ノ木坂(国道)

特徴 ●紅葉の六十里越街道を歩き、旬のキノコ料理を楽しむ。

参加費 ●約6km: 下りコース標高差300m  
●4,500円 六十里越街道弁当(昼食)・旬の料理 ガイド料・他

主催 ●米の粉の滝ドライブイン ☎0235-54-6311

# 11月

## 5日

### 落ち葉の六十里越街道をゆく



～フカフカの落ち葉のじゅうたん～

コース ●田麦俣～弘法茶屋跡～護身仏茶屋跡～湯殿山料金所前

特徴 ●フカフカの落ち葉の上を歩く。晩秋の里山料理を楽しむ。葉が落ちた六十里越街道からは遠く鳥海山が見えるかも。さと山料理を楽しんだ後は、温泉で疲れを流して下さい。

参加費 ●約8km: 上りコース標高差560m  
●3,500円 さと山料理・ガイド料・他

主催 ●あさひむら観光協会 ☎0235-53-3411



# 六十里越

古の街道



①	八幡神社(松根)～追分石～十王峠～注連寺～大日坊～塞の神峠～田麦俣 (約13km 約6時間(休憩含まず))
②	田麦俣～弘法茶屋跡～独鈷茶屋跡～護身仏茶屋～細越峠～笹小屋跡～湯殿山参籠所 (約9km 約5時間(休憩含まず))
③	湯殿山有料道路料金所～大岫峠～田代沢～焼山尾根～志津温泉～志津口留番所跡 (約9km 約7時間(休憩含まず))
④	志津口番所跡～弓張茶屋跡～四ッ谷山の神～一本木沢 (約5km 約2.5時間(休憩含まず))



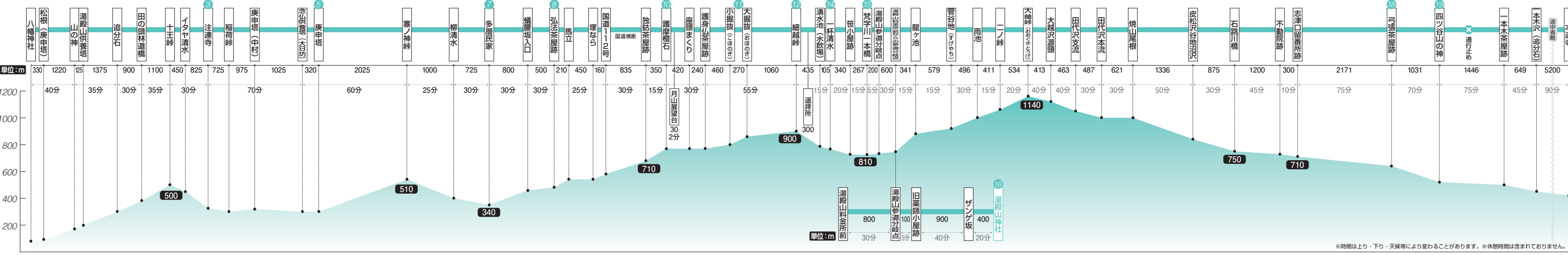
◆六十里越街道山船頭人(有料ガイド)をご紹介します。←実施日の3週間前までの予約が必要

## あさひむら観光協会

お問い合わせは  
TEL 0235-53-3411 FAX 0235-53-2400  
山形県鶴岡市越中山字名平3-1(道の駅 月山)月山あさひ博物館内) URL <http://www.asahi-kankou.jp/kankou/> E-mail [argodia@citrus.ocn.ne.jp](mailto:argodia@citrus.ocn.ne.jp)

■協力  
鶴岡市朝日庁舎産業課 TEL 0235-53-2111  
◆白装束、金剛杖、菅笠をセットで貸し出しいたします。←実施日の2週間前までの予約が必要  
¥500(おしずり1枚のクリーニング代)※5名様以上  
●お申し込み・お問い合わせ / あさひむら観光協会 TEL 0235-53-3411

◆お申し込み / 上記カレンダーの「主催・連絡先」になります。六十里越街道に関するお問合せは「あさひむら観光協会」までお願いいたします。  
◆ご注意 / 都合により日程・コースが変更される場合がございますので、お問合せ・お申し込みの際にご確認ください。  
◆服装等の注意事項 / 天候の変わりやすい山道を歩きますので、動きやすい服装と登山靴またはトレッキングシューズ、雨具を必ずご用意ください。(スニーカーやズックは危険です)。小雨は決行しますが、万一悪天候の際は、主催者側の判断によりコース変更または、中止となる場合がございますのでご了承ください。  
◆その他 / 健康診断は行いませんが、各自の責任において健康診断を済ませておいて下さい。参加中の負傷について現地での応急処置を行います。費用は本人負担となります。なお、参加中に事故が発生した場合、主催者側は傷害保険の範囲内でのみ責任を負います。



湯殿山への玄関口。古木の下には弘法大師が祀られている。松の根元には旅の安全を見守る「青面金剛童子」の碑があり、ここが追分であった。庄内藩では、六十里越街道の松根と大網を宿駅と定め、公用や一般旅行者などの物資の輸送のため荷馬や人夫や駕籠(かこ)などが常備されていた。



大日如来像や、本明海宗和上人の即身仏(ミイラ仏)が祀られている。庄内地方に現存する6体の即身仏の中では最も古く、損傷の少ない姿で安置されている。本明海上人の願いにより酒井藩公が援助。寺領70石を得て本堂や即身仏堂を新築、開山当時の繁栄を取り戻したという。



森敦の小説「月山」に登場する寺として有名。境内に森敦文庫がある。鉄門海上人の即身仏が祀られている。境内には「七五三掛桜(シメカケザクラ)」があり、毎年5月の始め頃に花を咲かせる。言い伝えでは、湯殿山を開山したご縁年の丑年には、ひとりにて注連縄が掛かるという。



大日如来像や、真如海上人の即身仏、金剛仏釈迦如来立像(国指定重要文化財)などが安置されている寺で、東北有数の霊場。徳川家三代将軍の座をめぐって、家光の乳母の春日局がここ大日坊で祈願をしたとされ、大日如来奉納、堂宇再建し将軍家全国七ヶ寺の1つと定められた。



高さ約4m、幅約2m、東北一の大きさといわれている。庚申とは、陰暦十干十二支の組み合わせによってできる「庚申(かのえさる)」の日を差す。庚申の夜、講中が当番の家の宿に集まり、「コーシンソワカ」などを唱えた後、夜を徹して語り明かし、この回数を重ねた日の記念に石碑を建てた。



高さ約27m、景行天皇の皇子・御諸別皇子が東北鎮撫のために下向したがこの地で亡くなり、その墳墓に植えられたものとして名前が付いたという。また、弘法大師が文殊菩薩のお告げに従い、日本の霊場を知るために投げた五鈴が引つ掛かたという伝説がある。県指定天然記念物。



豪雪地帯の風土と、狭い谷あいの土地柄での生活から、独特の造りを持つ美しい住宅「多層民家」が今も残る。六十里越街道の重要な中継地であった田麦俣は、多くの旅人を泊めた宿場の村だった。江戸時代にはおよそ30軒のうち7~8軒の旅籠があり、宿の灯火が絶えなかった。



織腰坂(きつい急坂なので、まるで織腰の地を這うように歩かなければならない)とから名前が付いた)を1kmほど登った場所にある。慶応元(1865)年に奉納された灯籠一基と、天保年間の弘法大師供養塔石碑など三基がある。田麦俣の集落が一望できる眺めのいい場所である。



街道中で一番の紅葉の名所。ブナ林の中にユキツバキが群生しており、春には花の彩りに包まれる。夏はブナの葉の緑が目にと爽やかで、秋の紅葉はももちろん。葉が落ちた晩秋に、靴の下にフカフカとした感触を楽しんで歩ける人気のコース。かつては一里塚があった場所という。



弘法大師が独鈷で地面に穴を掘って来たという伝説の「独鈷清水」から400mほどの場所にある。弘法大師が草を分けて道をつくり、この石の上で、災いを払い幸福を祈願して火を焚く密教の仏事「護摩折焼」を行ったとされる。近くに寛永6(1653)年建立の湯殿山道首供養塔がある。



文字通り山を掘り抜いた街道。街道幅約2m、地元では、「コボノギ」「オボノギ」と発音する。四季を通してブナの木がトンネルを作るが、春の新緑や紅葉の秋には勿論、特に陽射しの強い夏には頭上を覆って、程よい日陰を呈して不思議な心地よさを感じさせてくれる場所である。



標高約900m、峠の頂上には、ブナ林に囲まれた広場があり、湯殿山の石碑二基が建っている。そのうちの一本は、明治13(1880)年建立で、遠く徳島県の花が使われており、北前船の帰りの荷として運ばれてきたものといわれている。古い地図には「細首」と記されたものもある。



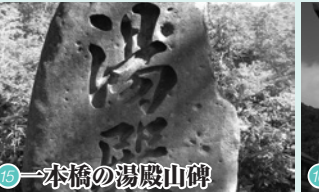
湯殿山参籠所の前にある赤い大鳥居と、湯殿山のご神体が遙かに望める街道唯一の場所である。地元では「拝所(おがみしよ)」などと呼ばれてきた。雪が深く本宮までの参拝が困難な時期や、諸々の事情で参拝できない時は、ここで拝んで戻っていったと言われている。



小さな石碑の近くに湧き出した清水。近くには、戊辰戦争の時、官軍の来襲に備えて掘ったという砲台の跡がある。会津鶴ヶ城が落城した後、官軍は六十里越街道を通り庄内藩を目指す。奥羽諸藩の防衛の実践的な防衛地点としてここに陣地を構築し、塹壕が掘られたのだ。



慶応4(1868)年正月頃から庄内藩では最上(村上郡)境の国境整備を始めたという。また、多くの将兵が防衛のために六十里越街道を登り、大網と田麦俣の両村に分宿したとの記述が残っている。大網口防衛の実践的な防衛地点としてここに陣地を構築し、塹壕が掘られたのだ。



湯殿山信仰の聖地、行人たちが即身仏を志して五穀・十数軒などの厳しい修行を積んだ。1,000日、5,000日の修行を終えると、信者らは行人たちをたたく湯殿山碑を建てたという。明治14(1881)年建立の巨大な湯殿山碑が沢の中洲に建っている。当時を偲ばせる石碑だ。



標高1,504m、月山に連なる丘陵で、中腹に「出羽三山総興の院」といわれる湯殿山神社がある。社殿はなく、湯殿山の「ご神体」は、お湯の湧き出る不思議な巨岩である。昔の人々は、命を産む女性の神秘を「ご神体」に重ね、「五穀豊穰」と「子孫繁栄」を託して長い間祈りを捧げてきた。



オートキャンプ場や運動公園が整備された弓張平。この近辺の街道には、幅約1.2m程の先人が敷き詰めた100メートルにおよぶ石畳の道が続いている。同じ石に口留番所からの距離を刻んで表示した「五丁石」がある。石碑や石塔なども現れ、古代の街道の軌跡を辿ることができる。



四ッ谷山の神を過ぎて、弓張平公園の始まる辺りに、2本の大きな杉の切り株が残る弓張茶屋跡がある。茶屋の目印にもなっていた杉は弓張大杉とも呼ばれていた。何百年もの間、ひっきりなしに訪れる。数えきれない参拝者達を、夏の強い陽射しから守ってきたと伝えられている。



昭和51年9月、寒河江ダム建設に伴い八百余年の長い歴史を閉じた四ッ谷集落。その全戸が移転する際、集落内にあった14基の石神群をここに合祀した。境内には山ノ神や姥神などの石碑があるが、中でも1688年に作られた六地藏供養塔は大変貴重なものといわれている。